

☆第1回実力テストの結果を送付します

5月31日(金)に実施した第1回実力テストの成績をお送りします。

今回のテストは、国語・数学・英語をそれぞれ200点満点で実施し、どの教科も1年生で学習した内容の定着度合いや応用力・活用力をはかる問題構成になっており、教科によっては、難関大学入試レベルの問題も出題されていました。基本から標準問題はまずまず解答をしていましたが、応用問題は白紙解答が目立ちました。日頃の学習で、レベルの高い問題に対してのアプローチの仕方や思考の仕方を学んでいくことが今後の課題になると思います。

☆第1回生活実態調査について

第1回実力テストにあわせ、5月24日(金)～5月30日(木)に生活実態調査を行いました。その結果は次の表の通りです。1年のときと比べ学習時間が減っています。県総体前の調査でしたが、学年平均学習時間が180分を割ってしまうことは大きな問題です。

個々の調査を見ますと、気になるのがスマートフォン等に取られている時間です。学年の進路の係からは、平日は「帰宅から就寝までの時間の半分」を学習時間にしてほしいということを伝えています。もちろん就寝時間を遅くすれば、翌日の授業に影響が出ますので、睡眠時間を削って学習しなさいという意味ではありません。「優先順位を考えて、時間を有効に使う」ということが目的です。

部活動等も忙しく、時間の捻出に苦労している生徒もいるでしょう。「時間は自分で作り出すもの」です。「早く切り替えができるか」「計画的な行動ができているか」など、ご家庭でも日々の生活のスタイルを見直してみてください。

	平日平均(分)	休日平均(分)	1日平均(分)〈平日5日休日2日に換算〉
1年第1回(6月)	148.8	260.3	180.6 (英 65.8 数 68.4 国 38.4)
1年第2回(9月)	141.0	209.1	170.2 (英 58.2 数 66.1 国 40.7)
1年第3回(1月)	143.2	249.6	173.6 (英 61.6 数 65.4 国 41.1)
2年第1回(5月)	136.7	246.3	168.0 (英55.1 数67.0 国34.8 地歴理科11.2)

☆未来航路(岡山大学教授・大学院生来校)

5月15日(水)に岡山大学の先生に来校していただきました。未来航路の課題研究では現在各グループで研究テーマを3つに絞り、その3つから最終的に1つに絞る作業を行っています。3つのテーマに対して資料を事前に先生方に送り、そのテーマすべてに目を通していただき、当日はすべてのグループに指導・助言をしていただきました。研究とはどういうものか、どのように進めればよいかなど本当に親切に教えていただきました。



6月6日(水)には岡山大学の大学院生・大学生に来校していただきました。大学の先生の助言からさらにテーマを絞り、テーマに関してさらにインターネット等で情報収集し、それぞれのグループで大学院生・大学生と意見交換しました。研究方法や論文の調べ方など、実際に論文を執筆している方々からの意見は本当に参考になり、皆さん一生懸命生徒のために助言をしてくださり本当にありがたかったです。次回は7月に再び大学の先生方に来ていただく機会を設けます。



☆今後の行事予定 ホームページにも行事予定を掲載しています。

- 6月18日(火)～21日(金) 関東方面修学旅行
- 18日(火)～22日(土) 海外方面修学旅行
- 7月 3日(水)～ 9日(火) 第2回学力テスト
- 13日(土) 進研模試(全員受験)
- 19日(金) 終業式
- 22日(月)～ 補習(29日(月)まで)

☆保護者の方にお越しいただきたい日

- 7月31日(水) 保護者面談中心日(詳細はクラスごとに連絡いたします。)
- 9月29日(日) 第2回保護者説明会(西川原プラザ) 14:00～16:30(受付13:30～)

加藤 慎一

令和元年度5月13日から1週間、全国高体連卓球部の団長としてジュニアサーキットに参加させて頂きました。タイ・バンコクは日本とは時差が2時間で、到着したときには多少暑いと感じましたが、建物の中は本当に涼しく過ごしやすかったです。今回はジュニアサーキットを何度も経験されている野田学園の先生、海外遠征は初めての三田学園の先生と男女4名の選手で11人の選手団を組み日本代表として参加しました。

加藤は今回、横浜隼人の女子選手がイタリアとスリランカの選手と団体戦を組むため、コーチとして混合団体のベンチに入ることになりました。このことは本当に勉強になりました。

また、コーチ同士でコミュニケーションをとるのにやはり英語が必要と感じました。どちらのコーチも気さくでいい方でした。加藤もめったに英語でしゃべることはありませんが、知っている単語を駆使して、間違えても積極的に話すことが大事だと思いました。

イタリアの選手はコーチと2人でジュニアサーキットを転戦しているようで、ランキングポイントも全選手の中で高く、強い選手でした。日本の選手が試合しているときに加藤は日本語で「ヨッシャー！」と応援していたらイタリアの選手が、「日本語でどうやって応援するの？」と聞いてきたので「ヨッシャー！だよ」と答えると、ここから一緒に「ヨッシャー！」と応援するようになりました。相手の国の言葉を理解してそれを自分のものとする態度に感激しました。3人の選手は一緒に試合前に練習してコミュニケーションをとっていました。この日本の女子選手は日韓ジュニア大会にも参加していて、会場にいた韓国の選手とも仲良く再会を楽しんでいました。また、加藤も韓国チームの総監督とコーチと再会し、お互いの健闘を誓うことができました。国際大会の醍醐味を感じた瞬間でした。

参加した選手達もそれぞれ対戦した選手達とコミュニケーションをとっていました。それぞれもちろん英語が堪能ではないですが、卓球を通じて相手を理解し、そして言葉は通じなくても積極的に話をしていくことは本当に大事だと思いました。

操山高校の2年生も、修学旅行で海外コースに参加している生徒についてはシンガポールの地元大学生の案内で市内観光したり、マレーシアの学校との交流、そしてホームステイする機会があります。この機会を逃さずに、積極的にコミュニケーションをとってほしいと思います。年齢が近いこともあり、相手も日本・岡山・操山高校について知りたいはずなので、怖がらずに頑張ってお話しかけていてもらいたいと思います。

今回の遠征ではタイについては体育館とホテルの往復で、タイを感じられるような観光は全くできませんでした。食事等で色々な食べ物に挑戦しました。しかし、3日目にホテルの朝食を食べてから嘔吐下痢になりました。そんな体調の悪い中でも、混合団体のコーチとしてベンチに入り、写真のように一生懸命応援をしました。正直大変でしたが、最後まで頑張っておベンチに入り、これもいい経験になりました。そして、次の日からは注意して食事するようになりました。普段日本でどれだけ安全なものを食べているのかが分かりました。今度はタイにゆっくり観光で訪れたいと思いました。

